「包括的性教育」サブタイトルの選定（選考対象４選）

豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会（第３回）

選考対象サブタイトル４選

1

手を取りあうための、からだと心のコミュニケーション

【関係性・親しみやすさ重視】
心身の健康と人とのつながりを温かく表現。性教育への心理的ハードルを下げます。

2

未来を自分で選ぶために、知っておきたいこと

【人生の選択・ライフデザインの重視】
主体的な選択を促す前向きなメッセージ。なぜこの教育が必要なのか、目的が明確に。

3

わたしも、あなたも大切に自分らしく生きるための学び

【自他尊重・王道の理念重視】
前回ワークショップで議論の中核となった「自他尊重」を網羅。男女共同参画の理念とも高い親和性。

4

からだ・こころ・人とのつながりを学ぶ新しい学び

【イメージ刷新・先進性重視】
「性教育＝恥ずかしい」を覆す前向きな響き。包括的性教育の本質をストレートに表現。


※ 生成AIによるイメージ描画です。


豊岡の農産物
※ 生成AIによるイメージ描画です。

第3回 豊岡市多様性推進検討委員会 ワークショップ❶

成長分野へのジェンダー主流化

【事業施策例】「豊岡型・観光×農業」分野、みんなの力でできることは？

◎めざす未来（背景と目的）

豊岡の２大産業である**「観光（城崎温泉・竹野の海・日高神鍋高原・出石城下町・但東の自然）」**そして**「農業（コウノトリ育むお米・神鍋高原キャベツ・八代オクラ・但東シルクコーン等）」**をつなぎ、年間を通じた雇用や多様な人たちが活躍できる環境の実現。
「観光／役員は男性、現場は女性…」「農業／力仕事だから男性が…」との思い込みを、**機械・デジタル（DX）**と**新しい視点（若者・シニア・外国ルーツ）**で変えていくことはできないでしょうか。

🗻豊岡の観光

海も山もある豊岡には四季折々の、風光明媚な観光地が数多。リゾート環境ならではの宿泊研修、会議などに適した施設が充実しています。
女性や若者のアイデアを、豊岡観光の企画や経営、役員層へ反映する仕組みづくりに活かすことはできませんか。

⇄

🌽豊岡の農業

豊かな自然環境と調和する豊岡の農業は、コウノトリとの共生が生んだ環境創造型の特長的な農法。ドローンやスマート農機、アシストスーツ等の導入で「体力の壁」を無くして、誰もが参画できる豊岡農業が実現できないでしょうか。

💡 **市役所（行政）の役割：** 市がすべてを直接行うのではなく、事業者が挑戦しやすく、働き手が安心して参加できる「環境・補助金・連携の仕組み」を整えること。

意見交換テーマ

【問い1】仕組みづくり ＆ 【問い2】商品・ツアー開発

問い 1｜仕組みづくり

「力仕事や性別の壁をなくし、誰もが主役になれる現場とするには？」

体力・性別に関わらず、現場や意思決定の場に多様な人が関わる工夫を話し合ってみてください。

【市からの提示イメージ例】
・ドローンやスマート農機の導入で、重労働を解消する（力仕事＝男性の壁を破る）
・観光協会や農協の協議会などに、女性や若者が必ず参加できる推薦枠（クオータ制）をつくる
💬 **考えていただきたいポイント：**「現場（農家や旅館）が、機械導入や女性参画枠をスムーズに受入れるには、市はどんな支援をすべきでしょう？」

問い 2｜新事業・商品開発

「若者・シニア・外国ルーツの人たちの視点を活かしたヒット商品や体験ツアーを作るには？」

多様な人たちが持つ知恵やスキルを、地域を盛り上げる新しい価値へと変えるアイデアを話し合ってみてください。

【市からの提示イメージ例】
・外国出身者の知恵や人脈を活かした「多言語ファーム体験ツアー」や海外直販ルートの開拓
・シニアの食文化の知恵 × 高校生・大学生のデザイン思考で作れる新商品やふるさと納税リターン
💬 **考えていただきたいポイント：**「思いつきで終わらせず、本当に売れる商品や持続する事業にするために、市ができるサポートは何でしょう？」

豊岡の男女共同参画センター機能（ネットワーク型）

～学びを軸としたプラットフォーム～

1.【対象・テーマ】既存講座の現状と課題



■ 現状（すでにある資源）

・市民講座、ビジネスセミナー、子育て教室（パパ・ママ対象）などが各課で多様に展開されている。

・生涯学習や産業振興の文脈で、一定の参加者層やノウハウがすでに蓄積されている。

■ 課題（何が足りないか）

・参加者の「属性」による分断：「子育ては母親」、「ビジネスは男性経営者」など、対象層が固定化・孤立化しがち。

・性の多様性、アンコンシャスバイアスといった「最新の価値観のアップデート」に特化した横断的な学びが不足している。

2.【活動場所】拠点サテライト施設・空間の現状と課題



■ 現状（すでにある資源）

・各地域コミュニティセンター、市立図書館、博物館・美術館などの公的施設が市内各地に存在。

・市中心部には「WACCU TOYOOKA（アイティ内）」など、アクセス性の高い多目的空間もあるが、郊外からの利用は多くない。

■ 課題（何が足りないか）

・専用の「男女共同参画センター」という物理的なハコ（施設）は豊岡市に存在しない。

・既存施設には「子ども連れで気軽に集えるスペース」、しかし「多言語案内」など配慮が一部不足している。

3.【届けるルート】情報発信・周知ツールの現状と課題

■ 現状（すでにある資源）

・『広報とよおか』、市公式ホームページ、各地域コミュニティ広報紙による確実な行政情報周知ルート。

・市公式LINEなどのデジタルツールによる即時発信体制の整備。

■ 課題（何が足りないか）

・従来ツールの発信が届きにくい層（中高生・大学生などの若い世代、外国にルーツを持つ住民）へのアプローチが弱い。

・男女共同参画やジェンダーギャップ対策に特化した、市民が双方向で繋がることのできるコミュニティ型発信が不足している。

4.【プレイヤー】地域人材の現状 ＆ 本日のワーク

■ 現状（すでにある資源）

・国際交流協会、子育て支援サークル、市民NPO、地域で先進的取組みで活動する多様なプレイヤーが存在。

・芸術文化観光専門職大学、兵庫県立大学などの「大学・学生」という大きな知的資源と若い力が豊岡にはある。

■ 委員の皆様への問い

★「ハコ（専用施設）」をつくらずに、これら既存の『人・場所・事業』を繋ぎ合わせるための、

具体的で魅力的な【学習プログラム】とは、果たしてどんなものでしょうか？